

デアル、近來此西洋實みざくら(誤テ世間デハ通常之レヲ櫻桃ト呼ンデ居ル)ガ我邦デ大ニ發展セル爲メ上ノ支那產ノ櫻桃(本名)ハ物好キガ少シク栽エテ居ル位ニシカ過ギナイ有様デアル、ソシテ此支那種ト西洋種トハ全ク別種デアルカラ之レヲ混同シテハナラヌ、櫻桃ハ右ニ述ベタヤウナモノデ之レヲ我邦ノざくらトスルノハ大變ナ誤リデアルガ上ノ伊藤圭介先生ハサウ誤認セラレテ居ッタノデアル、ソシテ其レガゆすらうめデハナイト頻リニ辨ジ同先生ハ上ニ掲ゲタ文末ニ「此翁ノ多識ト雖亦コレヲ一失ト謂ハザルベカラズ」ト陳ジテ蘭山先生ヘ一矢ヲ放ツテ居ルガ私ハ今直チニ此一語ヲ其マ、移シ來ツテ櫻桃ト cherry トざくらト八丈島ノざくら(即チ大島ざくら)トヲ同一物ト間違ヘラレタ圭介先生ニ奉リ蘭山先生ノ爲メニかたきヲ討テ上ゲルノデアル、呵々

○斷枝片葉 (其四十四)

牧野 富太郎

○食用トシテノうはみづざくら

うはみづざくら

(昔ノははか)ハ Prunus Grayana Maxim. ノ學名ヲ有ス

ル落葉喬木デ弘ク我邦諸州ニ生ズル、花ハ新枝ノ頂ニ總狀ヲ成シテ開キ花瓣ハ白色デ花中ニ雄蕊ガ多イ、果實ハ圓キ小核果デ秋ニ熟シ始メ黃色デ赤染シ後紫黑色ニナル、伊藤圭介先生ノ『日本產物志』山城部下卷ニ「立秋ノ頃實熟ス大サ赤小豆アツキ許ニシテ端尖リ色綠黃後、紫黒、肉味微甘仁ハ白クシテ堅ク味梅仁ノ如シ此實ヲ祇園ニテ鹽藏シ酒ヲ苺ムルノ料トナス」トアル、又越後デハ其花穂ノ尙ホ蕾ノ時之レヲ鹽漬ニシテ食用トスル、之レヲ同國長岡市デまんにんト呼ブトノコトデアル、私ハ其鹽漬ニシタ花穂ヲ藁デ括リ小サキ束ニシタモノヲ東京小石川植物園在勤ノ松崎直枝君カラ惠マレタコトガアッタ

●こせうのきノ實ノ辛サ こせうのさハぢんちゃうげ(瑞香)ト同屬デ Daphne kiusiana Miq. ノ學名ヲ有シ我邦ノ山地ニ生ジ早春ニ白花ガ咲キ佳香ガ

アル、雌雄別株デ雌株ニハ花後ニ赤實ヲ結ビ綠葉(常綠)ノ間ニ赫イテ居ル、此實ノ味ガ辛イカラ此樹ヲ胡椒の木ト稱スルガ此實ニハ毒ガアル、私ハ先年備中デ其熟實ヲ口ニ入レ嚙ンデ見た、始メ暫クハ少シモ辛味ヲ覺エナカッタガ間モナク大ニ辛クナリ頗ル堪ヘ難ク其レガ約ソ小一時間モ續キ漸ク辛味ガ淡ライダノデ安心シタ事ガアツタ

●どくうつぎノ實ノ味

どくうつぎ (Coriaria japonica A. Gray) ハ其名ノ示スガ如ク毒ガ

アル故ニ往々其實ヲ子供ガ食ヒ中毒シテ死スルコトガ珍ラシクナイ、此實ハ總狀ヲ成シテ集リ初メハ綠色ナレドモ次第ニ赤色トナリテ美觀ヲ呈シ遂ニ熟スレバ紫黑色ニ變ジ多汁トナル、此多汁ノ處ハ本當ノ果實デハナク其莖ト花瓣(各五數)トガ花後ニ肥大シテ宿存シタモノデ之レガ膨ラミ本當ノ果實(汁ナキ五顆瘦果)ヲ其中ヘ包ミ込ンデ居ル、私ハ先年相州箱根ノ入口デ其熟實ヲ味ツテ見たガ其汁ハ甘味デ頗ルうまカッタ、嚙下シテハ大變デ掛替ヘノ無イ命ヲ取ラル、カラ單ニ口ノ中ノミデ賞味シ吐キ出シタカラ無難デ別條ハ無カッタ、又口内モあれハシナカッタ

●ひがんばんナノ花莖ノ味

ひがんばんナハまんじゅしやげデ *Lycoris radiata* Herb. ノ

學名ヲ有シ野外ニ普通ノ球根草デアアル、先年其味ハドンナモノカト思ヒ其生ノ莖ヲ嚙ンデ見たコロ其レハ實ニ氣持ノ惡ルイ何トモ言ヘナイ味ガシテ幾ラ唾ヲ吐キ出シテモ中々ニ直ラズ大ニ閉口シタ、處ガ其襲重鱗莖即チたまハ之レヲ搗キ碎キ其レヲ布囊ニ容レ之レヲ長時間流水ニ晒シ其刺撃性ヲ帶ビタ毒分ヲ去リ其殘ツタモノヲ煮テ餅ニ交ゼ食スレバ糧トナルノデ邊鄙ノ村デハ農家デ時ニサウシテ米麥ノ補足トスル事ガアル

まノ嫩芽ヲ食フ

下總デハ早春ニがま(香蒲、Typha)ノ嫩芽ヲ採テ食用ニスル處ガアル、此レハ支那デモ

昔カラ食用ニ供シ蒲笋ノ名ガアル

●がまノ花粉ヲ啖フ

がま(Typha)ノ花粉ハ花時ニ其雄花穗カラ澤

山ニ出ルモノデ黃色ヲ呈シテ居ル、常州ノ潮來デハ之レヲ炒ツテ食スルト嘗テ聞イタ事ガアツタ(一度本誌ニ書イタ事ガアル)此花粉ハ謂ユル蒲黃デ『救荒本草』卷ノ八ニ「蒲黃ハ即チ花中ノ藥屑ナリ細キコト金粉ノ如シ開カント欲スル時ニ當テ便チ之レヲ取ルコトアリ市廛ノ間亦採テ蜜ヲ以テ搜ツテ果食ト作シテ貨賣ス甚ダ小

兒ヲ益ス」漢 トアル

●わすれぐさノ嫩芽ヲ食フ

日本デわすれぐさト云フノハやぶくわんざう (He-

merocallis fulva L. var. Kwanso Regel.) ヲ指シ支那デ忘憂即チ萱草 (萱ハ忘ル) ト云フノハしなわすれぐさ

(H. fulva L.) ヲ稱スル、わすれぐさノ名ハ原トハ此名カラ來タモノダ、此しなわすれぐさハ我日本ニハ生ゼヌ

ガ其八重咲ノ變種ハ之レヲ産スル即チ前陳ノやぶくわんざうガ其レデアツテ此レハ亦同ジク支那ニモ産スル、

此兩品ノ極初メノ土中ノ嫩キ芽ヲ支那デ扁穿ト稱シ食用ニスル、近時我邦デモ大阪、東京ナドデハ之レヲ料理

ニ使用スル、扁穿ハ多分其芽ガ少シ扁タクテソシテ地ヲ穿ツテ出ル時分ニ採ルカラサウ稱スルノデハナイカト

想像スル、此芽ノ二三寸ニ伸ビタやぶくわんざうノ嫩葉ヲバくわんざう若クハくわんざうナト呼ンデ從來カラ

我邦デハ食用トスル、甘味ガアリ煮テ酢味噌アヘニスレバ頗ルうまい、花モ亦煮テ食フニ堪ヘル、支那デハ萱

草ノ將ニ綻ビントスル蕾ヲ採リ乾シ貯ヘテ食料ニスルガ是レガ即チ黃花草一名金針菜デアル ●あかざト

しろざ Chenopodium album L. ノ普通野外ニ自生シ其嫩葉帶白色或ハ微ニ淡薔薇色ヲ帶ブルモノヲしろあ

かざトモあをあかざトモ又ぎんざトモ稱スル即チ此種ノ typica 品デアル、又圃ニ作ラレテ葉心ノ紅紫色ヲ呈

スルモノガ謂ユルあかざデ又あかあかざ、あか、おほあかざ、江戸あかざノ別名ガアル、此レハ即チ上ノしろ

あかざノ變種デ Var. centrorubrum MAKINO. ノ變種名ヲ有スルモノデアアル、彼ノ藜ノ杖ニスルモノハ即チ是

レデ其幹ハ可ナリ太イモノトナル、此品ハ往々圃カラ逸出シテ一時野生ノ状態トナル事ハアレドモ永續キセヌ

故しろあかざノ様ニ普通ノ雜草トハ成ツテ居ナイ ●ひめうこぎノ燈心 ひめうこぎハ Acanthopanax

Sieboldianum MAKINO. ノ學名ヲ有スルモノデアアルガ此屬中其葉ノ食用ニ供セラル、モノハ唯此一種ノミデ

アツテ俗間デハ此品ヲ普通ニうこぎト呼ンデ居ル (今日ノ植物學者ノ云フうこぎハ食用ニシナイ) 細キ竹デ此

ひめうこぎノ枝ノ髓ヲ一方カラ突込メバゐノ燈心ノ四倍程モ太キ燈心ガ採レ信州デハ往々普通ノ燈心ノ代リニ

之レヲ利用スルト曾テ田中貢一君ニ聞イタ事ガアツタ